

Message from 救護施設

Message from 救護施設について

新型コロナウイルス感染症により、私たちの生活は大きく変化しました。各施設では細心の注意をもって施設内クラスターの発生を防ぐべく感染症対策に徹底的に取り組んでいることと思います。しかしながら、現在も大都市圏をはじめ各地で新たな感染者が発生しており、先行きが見えない状況です。そのため最後のセーフティネットである救護施設においても「with コロナ」について考えていく必要があります。

🏠 通所・居宅生活訓練について

- 郡山せいわ園(福島県)
両事業ともに、利用者の公共交通機関の利用を控え、職員が毎日送迎しています。居宅訓練住居の利用については、平日の日中に、担当職員の付き添いで生活訓練を行っています。
- さつき荘(東京都)
居宅生活訓練事業については、緊急事態宣言時は一時中断していましたが、現在は通常通り実施しています。
- 八尾園(富山県)
居宅生活訓練事業の利用者と施設入所者との接触を避けるようにしていますが、その他の制限はありません。
- フローラ(大阪府)
通常通りですが、他入所者と極力交錯しないよう利用者に呼びかけ、協力を頂いています。

📋 メンタルヘルスケアについて

- 静心寮(北海道)
職員については、個別に感染予防の徹底に努めることとしており、施設側から特に日常的に制限はしていません。利用者についても、感染予防の徹底をお願いしていますが、基本的にはストレスをためない環境になるように配慮をしています。
- 美原の里(大阪府)
職員については、心理カウンセラーによる支援をお願いする予定です。また、休日も増やし希望日に休日が取れるよう配慮しています。利用者については、ストレスを少しでも解消してもらえるような取組みを考え実施しています。(カラオケ・おやつの日を増やす・食事に趣向を凝らしてもらう等)
- 丸山荘(愛媛県)
職員の県外への移動やイベントの参加については、特に制限せず、県や市が県民や市民にお願いしている対応についての内容のみお願いしています。利用者へは、おやつを臨時で出したり、小グループでのイベントを実施しています。
- かんざき日の隈寮(佐賀県)
職員は、所属長による面談、産業医によるアンケートや面談を行っています。利用者については、個別面談の実施、日頃から利用者の話を傾聴するよう心がけ、余暇活動の充実に努めています。

本コーナーは、他の救護施設のさまざまな状況や実践を通し、それぞれの施設の新しい戦略のヒントになればと企画しております。

第二弾も引き続き総務・財政・広報委員会を中心に施設の取組をお伝えします。

📖 感染予防の研修について

- 静心寮(北海道)
職員会議等で適宜行っています。外部の研修等についてはほぼ参加していません。
- 郡山せいわ園(福島県)
感染症対策委員会が中心となり、新型コロナウイルス感染症等の情報収集を図り、毎日の朝礼時や職員会等で職員に周知徹底しています。
- 美原の里(大阪府)
大阪府や各方面から出ている情報を周知したり資料を配布したりしています。Webセミナーを含めた研修に参加しています。
- かんざき日の隈寮(佐賀県)
医務室管理者(嘱託医)による感染症対策勉強会を毎月実施しています。

👥 職員の応援体制について

- 八尾園(富山県)
県内1施設のため応援職員派遣のスキームがなく心配です。
- さつき荘(東京都)
施設で感染者が発生した場合、まずは法人内の別の救護施設の職員が補助的な業務に入ることを検討しています。他法人からの応援を受け入れる場合は、感染者がいる施設に入るのではなく、応援職員を出した救護施設のフォローをお願いしたいと考えています。
- フローラ(大阪府)
大阪府が大阪府社協と連携し、新型コロナウイルス感染拡大に伴う応援職員派遣スキームを提唱しています。応援協力施設を募集している段階です。(10月)
- 丸山荘(愛媛県)
「えひめ福祉支援ネットワーク」が設置され、258法人が感染発生施設等へ応援職員を派遣する体制がととのっています。派遣可能職員数は約1,000人。救護施設においては、県下4施設間で協力する体制をとると確認はしています。

